

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773100649		
法人名	株式会社まちづくり小野		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	福島県田村郡小野町大字小野新町字知宗57番4		
自己評価作成日	令和5年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和5年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルスが流行した後も敬老会・誕生会・季節の行事を施設内で継続することで、面会や外出の制限がありつつも、皆さんと楽しい時間を共有することを心掛けている。
 ・全員がトイレやポータブルトイレでの介助により、気持ちよい排泄ができ、不快感からくる不安・不穏による様々な行動が減少したことで夜間の安眠につながっている。
 ・地産の野菜・旬の野菜・施設で収穫した食材を使い、食事の時間がおいしく自分で食べられる楽しみなひと時になれるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を理解し、地域の行事に積極的に参加したり、介護の仕事を希望する学生に研修就労する機会を提供するなど、事業所の持っている力で地域に貢献している。
 家族や職員の意見や要望を事業所運営に積極的に取り入れ、ケアの質の向上・家族との連携を図っており、地域に開かれた運営を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所のケアの基本であることを常に意識し、「地域とのつながりを重視する」という地域密着型サービスの理念を共有し、朝礼時唱和することによって実践につなげるよう努めている。	理念を、毎日声に出して復唱し事業所全体で掲げる目標とし、理念の大切さをわかってもらう機会にしている。利用者一人ひとりに役割があり生き活きた表情で過ごし、地域の方が気軽に立ち寄ってくれ、理念が活きていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染症対策にて一時期面会や交流ができない期間があったが、今ではシルバー人材センターや元従業員、以前の利用者のご家族など、野菜や不用品(シルバーカー、鍋、タオルなど)等よかったら、と声をかけてくれ、交流できている。	町内会の祭りに参加したり、神楽が来訪しお神酒を頂いたり賽銭箱にお金を入れ、子供たちが喜んでくれるなど、地域の一員として交流している。ボランティアや中・高校生は授業の一環として訪れてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地元の中高生の実習を通して、認知症の人とのコミュニケーションの回り方や介護の仕事のやりがいを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	運営推進会議は書面での開催をしている。その中に事業所で取り組んでいる様々な内容に意見を頂いているが、委員の方々より感染対策や健康管理が評価され、不安な中での介護の提供だったが、職員全体が前向きになれた。	防災ラジオの設置、介護職希望の高校生のボランティアを招いたらなどの意見を貰い、一つひとつ実現に向けて取り組んでいる。会議が活発になることで、地域の出来事が早くわかり、職員の働く意欲が向上するものと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居申し込みの相談や、入退居状況について、随時報告している。事業所の実情を常に把握して頂いている。双方の情報交換をし、意見を交わしている。	町の担当者から、グループホームへの入居が望ましい方の受け入れ相談や他の市町村からの相談もある。町からは、新型コロナウイルス感染情報や対策、研修や行事参加の案内を受け取っている。困り事がないかと声をかけてくれ問題解決へ協力してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修と身体拘束廃止委員会にて繰り返し拘束に当たる行為を復習し、特に身近なスピーチロックについて重点的に学んでいる。玄関の施錠は夜間のみとしている。	拘束をしないケアのメリット・デメリットを全員で検討し、身体拘束をしない介護の実践に職員全体で取り組んでいる。多忙時に、焦りから言葉の拘束になりそうなときは、職員間で協力しながら、声掛け見守りをするようにしている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	8月より各個人でオンライン研修で学ぶ機会をつかった。内部研修でも、事例に照らし合わせながら、身近な問題として学んでいる。虐待の定義・通報の義務について	拘束や虐待について、わかりやすい資料を作成し、事例検討から始まる内部研修を行っている。困難なケアになった場合、職員全員の情報共有と話し合い解決につなげる努力をしている。職員の疲労やストレスが、利用者へのケアに影響しないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員もこれらの制度について学ぶ機会を予定し、必要としている利用者や家族がいれば活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は、感染対策を取りながら、利用者や家族等が不安や疑問が生じないよう、十分な説明をする時間や機会を設け、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者はいつでも自由に管理者や職員に話ができる環境である。ご家族等とは、面会で来訪時に声をかけさせて頂いたり、利用者さんの報告をしている。	年に数回、アンケートをお願いし、面会に来た時などに声掛け、家族等から要望や意見を貰うようにしている。家族に不幸があり本人と共に同行したり、空室の日当たりのよい部屋にとの相談を受けて、早い時期に応えることができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	管理者は検討された職員の意見や提案を、代表者に報告相談している。代表者や管理者、ユニット主任と話し合う機会を必要に応じて設けている。	普段から管理者と職員が食事や休憩時間を共にし、小さな事柄でも意見や提案を見つけ出せるようにしている。行事や日々の献立、物品の購入など、意見が活発に出て、実現できていることで、職員の達成感が向上している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当・特定処遇改善手当をはじめ、実務者研修受講時の補助金制度や正社員への登用、個々の事情に合わせた勤務形態の相談に応じ、働きやすくしている。オンライン研修を各個人が受講すると1講座につき設定された金額がもらえる仕組みができた。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じて勤務形態を考慮して無理なく変則勤務になじめるよう新人職員の育成に取り組んでいる。通勤に必要な免許取得にも休日交換・勤務変更で協力している。	管理者・運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、求められる人材像を作成し、職員全員に配布している。資格や勤務年数に応じてキャリアアップにつながり、コミュニケーションがよくとれるようになっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った4事業所の管理者とグループラインでつながり、意見交換の場を設け、参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調は必ず行き、ご家族・ご本人の話を伺っている。事前に見学が可能な場合には、来て頂いたりすることで、本人の声に耳を傾けながら会話を広げ、信頼関係が生まれるよう情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話せる環境づくりと、それに対応する守秘義務の説明をすることにより、どんなことに困っているか不安なのか、話をしっかり聴き、受け止めながら初期にしっかりした関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実調の時点で、どのような支援が必要かを見極め、本人や家族の状況から、事業所としてできる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜や料理を一緒に作ったり、衣類の繕いものをしたり、買い物や散歩と一緒にいくことで気分転換している。プライバシーが守られる相談室や自室で対応することで日頃から相談しやすい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族との電話や手紙、もある。月1回の近況報告や広報紙で利用者の様子を報告している。面会は玄関での対応だが、直接顔を見れるということで喜んでいただけている。コロナ以降タブレットを使ってオンライン面会も可能となった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や美容院、手紙のやりとりなど、本人がこれまで大切にしてきたなじみの関係を断ち切らないよう支援している。	町主催の行事に参加し、知人や親せきに会う機会を設けたり、なじみの美容室に通いおしゃれを楽しむなど、これまでの関係が継続できるようにしている。家族や知人からの電話がかかってくることも多く、居室でプライバシーを守りながら会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通する趣味や話題を探り、利用者同士が助け合いながら役割を分担したり、席替えや互いの部屋に行き来、おやつのおすそ分けをして楽しむことによって互いに支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた利用者の家族から、使わなくなった介護用品をご厚意でいただいたり、ご家族の趣味の手作り作品が届けられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	利用者の直接の訴え・ちょっとした何気ない言葉や様子から気付いたことを朝礼やカンファ時に情報共有し話し合っている。	診の待ち時間、一対一になった時、居室に訪問したときなどに、家族との関係や自分が亡くなった後のこと、入居者同士の相性など様々な思いを聞いている。職員は否定せず聞き、思いを職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの暮らし方を、家族や本人との会話から把握したり担当だった居宅ケアマネと連携しサービス利用に至った経過を情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を記入する際、一日の流れの中で本人の状況を総合的に把握し、できる事・わかる事を、毎日の暮らしの中で発見していくことに努める。その情報は、必要に応じて申し送り簿によっても伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行い、気付きメモの記入により、参加できない職員も意見を出せるようにし介護計画を見直している。	強制することなく、本人が得意とすることを職員間で把握し、役割分担を決め、その人の持っている力を活かしたり、維持できるようにどのように計画作成している。その人らしい生活ができるよう、利用者との会話を大切にし、意向やアイデアを反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、サービス実施チェック表にて実践状況が把握できるようにしている。個人の気づき・工夫について(良かった・成功した)申し送り実践へとつなげ、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門外来受診やお花見などのドライブ、散歩の付き添いの要望に取り組んだ。遠方のご家族の依頼により各種申請や手続きに同行したり、ご兄弟のお見舞いなどの対応、外泊時に自宅への送迎も取り組んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報を2部いただき、各ユニットに置くことで身近な情報に親しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみの医師による、往診を含む継続的な医療が受けられ、必要に応じて主治医の紹介により専門外来の受診も行っている。歯の治療も利用者のなじみの歯科医院に通院している。	受診は職員が対応している。緊急時は、電話をしているが、通常は毎月のお便りで、受診の内容、検査結果についてコピーを渡して報告している。心配な症状が見られた場合、家族が主治医と話ができるよう事業所で日時を調整している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関Dr(田村医師会)からipadの提供あり、異常を見つけたときは、ipadや電話で看護師に報告相談し、早い段階で医療的処置やかかりつけ医への医療支援につなげている。非常勤の看護師よりアドバイスをもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ムンテラ時の同席、心配な症状の時は家族も同行している。病状が安定次第すみやかに退院できるよう病院関係者や家族とも常に話し合い支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針を示し、急変時や終末期にどのように対応するか家族と話し合い、主治医とも連携を取りながら、事業所としてできる力量を見極め、状況の変化を必要に応じて家族に報告、場合によって短時間の面会の機会を設けた。	利用者との時間を少しでも共有して貰えるよう、家族が自由に面会できる態勢を整えている。医師や看護師と常時連絡でき、報告に対して指示を受け、点滴や状況確認に来てもらうなど連携している。終末期対応職員の研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状況の急変や事故発生時にただちに連絡できるように一覧表にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ヘルメットやハンドマイクを準備し、食料や水などを備蓄・管理するとともに、地域の消防団と協定書を交わし、いざという時の協力体制を作っている。	消防署立ち合いの訓練後、二次災害がおきないような待機場所について検討するよう助言を受け、廃油やゴミ置き場、コンセントのほこりの清掃について指摘を受けすぐさま対応している。地元消防団と協力体制の契約を交わし、災害時等の連携が取れるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相談室を活用し、利用者が本音で相談できる環境を整え、対応している。どんな内容にも真剣に応える心がけをしている。個々に応じて掃除やシーツ交換時、本人と一緒にすることで荷物の置き場所を元に戻している。トイレの声掛けは、手洗いの声掛けで誘導している。	利用者個々の事情や価値観の違いを理解し、その人が大切にしているものや思っていることを否定しないことを基本にしている。利用者が自分の家族だったら、どんな対応を望むか話し合い、利用者中心の考えを大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者からのどんな小さな訴えにも耳を傾け、家族への電話・買い物介助・散髪・期日前投票など、本人の希望を伺い、対応している。誕生会には本人の希望を伺い、好きなメニューでお祝いしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、自室とリビングを自由に行き来され、自室で休んだり、テレビ観賞、読書、手芸、大勢でレクに参加、散歩に出て草むしりや花を摘んで飾っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容院や、訪問散髪で2か月毎に散髪、その後毛染めされる方もいる。お気に入りのクリームを準備している。外出や入浴時洋服を選んだり、鏡を見て髪をすくことで、身だしなみを整えたりおしゃれをすることの支援をしている。化粧品を準備する家族もある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	カウンター越しに利用者は音やにおいからその雰囲気を感じ取ることができ、旬の野菜の下ごしらえ、調理や盛り付けを行う。	管理者・計画作成担当者・ユニット主任が交替でメニューを作成し、行事や誕生会は担当者が利用者と相談している。利用者の得意なことを活かして声掛けし調理などを手伝ってもらい、職員も同じものを食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせて食事の形態・器・カップも工夫している。水分も好みの種類や温度でチェックをしたり摂取量の確認に努めている。食事や水分補給・おやつ前には排泄介助を欠かさずすることで安心して摂取して頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が口腔ケアの重要性を理解し、利用者も洗面所を選んだりブラシの選択も行い、自力で行った後、職員が仕上げに磨き、工夫しながら、毎食後、全員が口腔ケアを行っている。うがいが難しい方は専用のシートで拭き取っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、食事前、時間誘導でトイレ誘導のタイミングをつかむようにしている。おむつを併用している利用者もいるが、全員がトイレやポータブルトイレでの排泄を習慣付けている。日中と夜間、おむつやパットに交換することでコスト削減できるよう工夫している。	その人に合ったトイレ介助で排泄の訴えを促し、排泄用品の削減につながっている。安易におむつやリハパンを使用せず、利用者の排泄サイクルを理解、時間誘導やトイレに座る時間を考慮して失敗を減らす工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を促す事はしているが、下剤を調整しながら腹部マッサージやポータブルトイレでの自然排便にも努めている。タイマーを使用する事で適度な時間の排泄介助をしている。水分が摂れない方にはゼリーや牛乳で補っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調不良、外出や受診による入浴日変更により、週2回の入浴は実施している。利用者さんの状態に応じて一般浴、特浴で対応している。毛染めは入浴とセットで、入浴を嫌がる方には毎日声掛けしタイミングが合った時に入浴して頂いている。	自宅での入浴時間に合わせた入浴を促したり、交換する下着や服を確認して貰い、安心して入浴している。浴室と脱衣所両方に暖房設備を設け、ヒートショックの防ぐようにしている。着脱時の羞恥心に配慮して完全に個別対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ニュースや歌番組を楽しむ事で安眠する方や自室で手紙を書いたり本を読んだり、眠くなるまで職員と過ごすなど就寝時には強いこだわりはしていない。照明にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的や用法等についていつでも確認できるようになっていて、内容が変更になった時はその都度申し送っている。誤薬を防ぐために服薬時間毎に色分けし、与薬の際は、声に出しながら、複数の目で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	のど自慢や時代劇を録画することで見たい時に見れる。新聞・広報が楽しみで読んだり、カラオケもたまに唄う。毎日の掃除や食事準備・片付けに役割分担があり、利用者さん同士が支え合っている。たまには、ノンアルだが、ビールを飲んだり、庭にはいつでも出られる環境になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の訴えで近所の店まで車椅子で出かけた後、補聴器・眼鏡の相談になじみの店に通ったりしている。また、おやつ・衣類の買い物に感染対策を取りながら外出している。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮し、広々とした庭に車いすの方も安全に出て、花壇や畑を眺めて貰っている。暖かく晴れた日には、レクリエーションを庭で行っている。近くの町民グラウンドや公園に、気分転換に散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今までの習慣から小遣いを自分で管理し支払う力のある利用者や、使わなくても所持していた利用者など、個々に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	離れた親戚や家族との手紙のやり取りができるような支援と、自分で本人の携帯から家族に電話したり、希望で電話を掛けたり、家族より電話が入った際には本人につないでいる。施設に郵便物が届くように転送手続きをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには毎月のカレンダーを手作り、その都度作品を飾り、明るい雰囲気を作っている。ソファを中心にゆっくりTVを見たり、和室で洗濯物を干したりたんだり交流を図れるようにしている。ちぎり絵・ゴミ箱作製、雑巾・ふきんを縫ったり、リビングでの役割がある。	ひとり一人、自由な時間は好みの場所で過ごして貰っている。日向ぼっこやソファに移動したり、定位置もあるが、曜日や日の中で好みの場所が変わったり、ユニット間の行き来をする方もいる。廊下には物品を置かず、全般的に手すりが見えるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルにはある程度自分の決まった場所はあるが、その日・その時・その方の気分で過ごすことができている。互いのユニットも行き来できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	本人好みの時計やカレンダーをつるし、本人なりの荷物の整理整頓がされている。コルクボードを設置し、家族の写真や色紙、手紙などを飾っている。三面鏡などのなじみの家具や位牌を置いたり、好きな花を居室に飾っている。ポータブルトイレにはカバーを掛けている。	身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をその人に合わせている。自分の居室を間違わないよう居室の入り口に担当職員との写真を貼ったり、見やすい高さに名前を表示したり、目印をつけている。独歩・歩行介助・車いすにわけ、表札横に示し訓練時に参考にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	担当者と利用者が一緒に写した写真を貼り、部屋をわかりやすくした。2ユニットの施設内部を自由に往来することで、おつかいや利用者同士の交流につなげている。廊下やリビングのスペースを十分にとり、車いすの利用者も行き来している。		